

伝

統

大阪城天守閣・大坂の陣400年プロジェクト

FAMILY

FESTIVAL

2014

IN OSAKA CASTLE

継

トビタイムスリップ  
大阪城天守閣  
大坂の陣  
400年  
2014-2015

承



大阪城  
ファミリーフェスティバル  
2014  
2014年5月  
3日(土・祝) / 4日(日・祝)  
5日(月・祝)  
午前11時~16時  
開催場所: 天守閣前本丸広場特設ステージ  
料金: 無料 \*天守閣へは別途入館料が必要

5月5日 月曜 14時から

# 鉛細工の歴史

鉛細工・寿庵

鉛細工の原料である水鉛は「日本書紀」が編纂された養老四年(七二〇)には既に鉛が存在しており、正倉院に収蔵されている古文書には阿米と記載があることから、米を原料として作られたようです。享保元年(一七一六)、吉宗が八代將軍になりました。この頃鉛細工は「鳥の鉛」と呼ばれて、庶民に親しまれ町で売られるようになりました。当初は現在のように挟み指だけで細工したり、種類が限られ鳥が主だったといわれています。「さあさあ子供衆、買うたり買うたり、鉛の鳥じゃ鉛の鳥じゃ…」と浄瑠璃で鉛売りの口上が演じられており、寛政十二年(一八〇〇)には鉛細工という言葉が初めて出て来る川柳があり「引き出して小鍋立する鉛細工」と詠まれています。しかしながら庶民のあいだでは「鳥の鉛」が通称のままでした。幕末の『守貞漫稿』には、「昔は鳥の形が専らだった。今も鳥の鉛と言って鉛細工の総称として」と記されています。この時代の鉛売りには「土平鉛売り、あまいだ鉛売り、お駒鉛売り、唐人鉛売り」が存在しています。昭和の初め頃まで、地方によっては「鳥の鉛」という呼び名が残っていたようです。江戸時代の後期には、越後で良質な水鉛が作られるようになり、



5月5日 月曜 12時30分から

# 面白歴史 演芸館

「大阪が生んだ東西屋『街頭広豆芸の歴史』」  
大阪城 天守閣館長 北川央  
江戸時代も幕末に近い弘化二年(一八四五)、千日前を中心に活動した一人の鉛売りがいました。テレビの時代劇でもお馴染みですが、当時の鉛売りは、派手に衣装に身を包んで、団扇太鼓や鉦を打ち鳴らし、おもしろおかしく歌ったり踊ったりしてお客を集め、鉛を売りました。



な衣装に身を包んで、団扇太鼓や鉦を打ち鳴らして踊ったり歌ったりしてお客を集め、鉛を売りました。鉛勝と呼ばれたその男はたいへんなアイデアマンで、この鉛売りの商法を、他の商店・商品の宣伝に利用できないかと考えたのです。

その越後産の水鉛を鉛細工に使用するようになりました。それ以前の水鉛は精製の技術が乏しく透明でなく赤味がかっていたようです。この年代に和バサミ(U型の握り鋏)が量産されて、江戸の鉛細工職人は挟みを使用するようになり、種類と技術が発展しました。その後、関西では挟みを使用し鉛を草の先に付け空気を吹き込み、細工を施すようになり、関西と関東で作り方に違いが生じました。現在でも関東方面の鉛細工は空気を入れませんが、関西では鉛細工に空気をいれるといった技法が主流となっています。当初は口で息を吹き込み、鉛を空気で膨らませていたが、平成になってからは口で吹き膨らませる方はいなくなりました。専用道具を使用して空気を送り込む技法に変わっています。現在では鉛細工を作る者を鉛細工師と呼び、伝統工芸としての鉛細工は労力の割にはビジネス面での見返りが少ないことなどから、見た目の派手さとは裏腹に、技術の伝承が困難になっています。



# トザイ、トウザイ!



またわが国初の広告代理店の誕生でした。鉛勝の時代には、未だこの商売に名前はありませんでしたが、彼のあとを継いだ勇亀が、宣伝の前に、芝居の口上よろしく「トザイ、トウザイ!」と大声で呼ばわったことから、大阪では明治十三、四年(一八八〇、八一)頃には「東西屋」という名称が確立しました。この東西屋の宣伝方法は明治二十年(一八八七)前後に、大阪から上京した秋田柳吉によって東京にもたらされ、仮名垣魯文、広目屋」と命名し、陸海軍の軍樂隊を模した樂隊広告で独自の発展を遂げました。こうして大阪では「東西屋」、東京では「広目屋」と呼ばれるようになったのですが、昭和六年(一九三一)頃に入りチンドン屋」という名称が確立し、次第に「東西屋」「広目屋」という呼び方は忘れられていきました。そのチンドン屋さんの現在の姿も見ていただきながら、過去にさかのぼって、рутツも再現していきます。明治期の街頭広告(シタタ)、東西屋の口上、そしてまたはるか昔、大坂の陣の瓦版売りまで、さまざまな時代の雰囲気再現するパフォーマンスを、楽しくご覧いただけます。



こうして生まれたのが、こんにちいうところのチンドン屋で、それは

※参考文獻『匠の姿 vol.1』(一九九九年)、大江戸のしり団 二〇〇〇年

※参考文獻『江戸鉛細工』

http://www.amezakushi.com/amezakushi.htm

http://www.hitachi-metals.co.jp/fatara/np02.htm

※鉛細工の歴史に関しは諸説あり、ここでは文獻などに記載されている史料を元とし紹介させていただきます。

5月3日(土) 11時から、13時30分から

# 大阪城鉄砲隊

澤田平

鉄砲―火縄銃は、天文十二年(一五四三)ポルトガルから日本にもたらされるとすぐ、優れた技術をもった鍛冶たちの手で国産化され、戦国大名の必需品として大量生産されることになりました。また、その鉄砲鍛冶の技術をもとに望遠鏡や時計、さらには自転車、万年筆といったものまでも作られてゆくののです。

上泉伊勢守信綱は愛洲陰流より「転」を工夫して新陰流を創始した。信綱に師事した柳生石舟斎宗厳は「無刀の位」を開悟して第二世を継いだ。宗厳の長男嚴勝の子、兵庫助利蔵は祖父石舟斎の薫陶を受け、異才が開花し第三世を継承した。元和元年(一六一五)に尾張藩主徳川義直の兵法師範となり、太平の時代に即応する「直立つる身」―自然体―の兵法を確立し、上泉流祖以来の剣の理と刀法に根本的な改革を加え、当流を大成した。利蔵の子、連也蔵包も天才的な達人で「尾張の麒麟児」と尊ばれ、道統は尾張柳生家代々の師範と尾張藩主徳川家の協力によって正しく伝承されて、第二十二世宗家柳生耕一蔵信に至っている。



5月3日(土) 12時30分から、15時から

## 柳生新陰流兵法

第二十二世宗家 柳生耕一蔵信

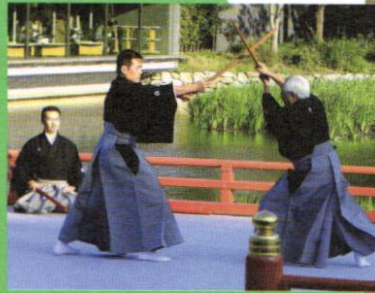
徳川家の協力によって正しく伝承されて、第二十二世宗家柳生耕一蔵信に至っている。

### 系譜

- 上泉信綱 柳生宗厳 柳生利蔵 徳川義直 柳生蔵包
- 徳川光友 徳川綱誠 柳生蔵延 徳川吉通 柳生蔵徳
- 柳生蔵春 徳川治行 柳生蔵之 柳生蔵久 徳川斉朝
- 柳生蔵政 柳生蔵蕃 徳川慶恕 柳生蔵周 柳生蔵長
- 柳生蔵道 柳生蔵信

### 流儀の特徴

心身ともに「無形の位」を本体とし、千変万化する相手を明らかに観て、その動きに随って無理なく転変して勝つ自在の刀法、則ち活人剣である。太刀を全身の動きにのびのびと使い、刀身一如臨機応変、自由活発に働く神妙剣を目指している。流祖以来の剣理と刀法が正しく体系的に完備している。



画像提供：安城市教育委員会



5月4日(日) 11時から、13時15分から

# 信州上田真田陣太鼓保存会

昭和五十九年のNHK新大型時代劇「真田太平記」放映を期に結成された団体で、「日本一の兵」と称えられた真田幸村公を始めとする真田一族の精神を受け継ぎ、その精神を和太鼓で表現します。現在は、幸村公の故郷、信州上田の文化芸術の力を観光振興に活かすため、様々なイベントに出演し、演奏(演武)を行っています。



大阪城天守閣館長 北川央  
万歳は元来千秋万歳と呼ばれた祝福芸で、はやく平安時代には行われており、毎年正月には参内して宮中でのその芸能が披露された。三河国では、幡豆郡上町村(現在の愛知県西尾市上町)の臨濟宗寺院実相寺の二代応通禪師による建治三年(一二七七)の作詞をもって起源と伝える森下万歳(西尾市西野町)、応仁年間(一四六七)一四六九)に尾張国愛知郡熱田(現在の名古屋市中熱田区)の薬師寺から逃れて来た玄海法師が土地の人々に教えた「禮楽舞」が基になったという別所万歳(安城市別所町)などが伝承され、江戸時代には、徳川將軍家が三河の出身であったため幕府から厚い保護を受け、江戸城内に各大名屋敷はもとより広く各地の回動を許され、万歳といえは三河万歳を指すほど有名になった。

## 国指定重要無形民俗文化財

### 三河万歳

5月4日(日) 12時30分から、14時30分から

三河万歳は平成七年に国から重要無形民俗文化財の指定を受けたが、その対象は、安城の三河万歳保存会・西尾市三河万歳保存会・幸田町三河万歳保存会から成る三河万歳連合保存会で、今回はそのうち安城の三河万歳保存会にご出演いただく。同保存会はもとも福釜(安城市福釜町)万歳と呼ばれた万歳師の集団で、尾張万歳の演目である三曲万歳や御殿万歳などを演じていたが、昭和四十七年に寺島高太夫氏が別所万歳正統の後継者である若杉平正太夫氏に師事して神道三河万歳を習得し、「若杉喜利大夫」の名と許状を得た。なお、こんにちの大衆芸能としての漫才は、上方芸人の玉子屋円辰が明治二十七年頃知多の平松氏のもとで尾張万歳を学んで帰り、舞台上演したのが始まりである。



紙芝居業者の中心的存在です。昭和三十年(一九五五)、塩崎源一郎は所蔵する紙芝居画三万巻(巻は十枚合計三十万枚)を紹介する「塩崎おとぎ紙芝居博物館」を創設しました。紙芝居画は全て手描きで、世界に一枚しかないものはあります。その中には、酒井七馬(手塚治虫の師匠)や武渡正史郎、山口正雄、くつな峰秀などの名画もふくまれています。

## 塩崎おとぎ紙芝居博物館

塩崎源一郎と塩崎ゆう

第二次大戦直後の荒廃した世にあって、子供の心を明るくしようと、一念発起し、街頭紙芝居の絵元製作元、紙芝居総合センター「三邑会」が設立されました。

街頭紙芝居の絵元とは、紙芝居業者に画を貸し出す(配画)、紙芝居屋に画を貸し出す(配画)、紙芝居業者の中心的存在です。昭和三十年(一九五五)、塩崎源一郎は所蔵する紙芝居画三万巻(巻は十枚合計三十万枚)を紹介する「塩崎おとぎ紙芝居博物館」を創設しました。紙芝居画は全て手描きで、世界に一枚しかないものはあります。その中には、酒井七馬(手塚治虫の師匠)や武渡正史郎、山口正雄、くつな峰秀などの名画もふくまれています。

5月5日(月) 11時から、14時30分から

# こんべいとうの手作り体験教室

「こんべいとう」は砂糖菓子の一つでその名の由来はポルトガル語の「Conchas」からきています。天文十二年(一五四三)にポルトガル人が日本に現れた事から南ヨーロッパの影響を受けた「南蛮文化」が開花します。時代は室町時代末から安土桃山、江戸初期にかけてのことです。十六〜十七世紀にかけて、南蛮菓子がもたらされたが、南蛮菓子と言言葉は、慶長十三年(一六〇八)バテレンが正月の挨拶として「南蛮菓子」を献たとして来ます。「コンフェイトス・カステラ・ポーロ」などがその代表とされており、他の文献には「アルヘル・カルメル・パアスリ・ヒリヨウス」などの名が見えます。種子島に漂着したポルトガル人達は、キリスト教の布教を目的にした宣教師と通商の拡大を目指した貿易商人でした。その六年後の天文十八年(一五四九)には、ザビエルが鹿児島に到着、それから二十年、フロイスが永祿十二年(一五六九)に織田信長に会い、そのときの献上品が「コンフェイトス」でした。ところが、寛永十六年(一六三九)江戸幕府は、キリスト教を禁止するため鎖国令を出し、ポルトガル船の渡航を禁止しました。これによりコンフェイトスの持ち込みが一時途絶えますが、中国人によってその製法が再び伝来され、日本人が自らの技術として製造していくことになりました。このことは、井原西鶴の『日本永代蔵』(一六八八年)の中で、長崎の町人がこんべいとうの製造に二年余りも取り組み、遂に成功し大金持ちになるという逸話が記されています。そして、江戸時代末期には各地にこんべいとうの製法が伝わっていき、盛んになっていきます。明治の後期になると、それまでは手作りだったこんべいとうが、少しずつ機械化されていきます。明治三十六年(一九〇三)にこんべいとうの機械の特許が、「金米糖製造機」の名で出願されています。この回転式製造機械を発明したのは村上辰三郎で、特許権を買取り、こんべいとうの量産をしたのが三谷為助という人物です。彼は、こんべいとうの製造技術者であった東海慶太郎と共に、大阪の西区に回転釜二十台を据えて「機械製金米糖」と称して大々的に売り出しました。兩名とも大阪人であり、機械製こんべいとうの発祥の地は、商売の都、大阪だったのです。



<b>5月3日(土・祝)</b>	<b>5月4日(日・祝)</b>	<b>5月5日(月・祝)</b>
11:00- 大阪城鉄砲隊	11:00- 信州上田真田陣太鼓保存会	11:00- こんべいとうの手作り体験教室
13:30- 柳生新陰流兵法	13:15- 安城の三河万歳保存会	14:30- 面白歴史演芸館
12:30- 柳生新陰流兵法	12:30- 安城の三河万歳保存会	12:30- 面白歴史演芸館
15:00-	14:30-	13:30- 塩崎おどぎ紙芝居博物館
		14:00- 船細工・寿庵

※イベントの内容は予告なく変更または、中止になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

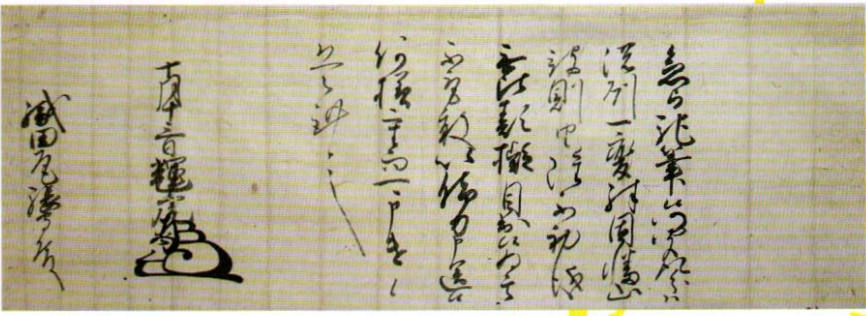
## 乱世からの手紙

### 大阪城天守閣収蔵古文書選

戦国時代のことを知り、実感するうえで不可欠の素材が古文書です。とくに武将たちが出した文書からは、彼らの戦略や心情、人間関係、生活、風習など、さまざまな情報が読みとれます。本展では、この分野のコレクションとしてトップクラスの質量を誇る大阪城天守閣の収蔵品から逸品を選び、読み始めればおもしろい古文書の魅力をお伝えします。

会期 平成26年3月21日(金)〜5月6日(火)振休  
場所 大阪城天守閣 3階・4階展示室  
料金 大人600円(天守閣入館料)  
中学生以下、大阪市在住の5歳以上の方は(要身分証明書)、障がい者手帳等ご持参の方は無料

上杉謙信から織田信長への手紙



## 大阪城天守閣

大阪のシンボルとして親しまれている大阪城天守閣。内部は歴史博物館で、豊臣秀吉や戦国時代、大阪城の歴史を第一級の文化財や映像・模型などで分かりやすく紹介。また、展望台からの眺望、兜・陣羽織の試着体験も人気があります。



〒540-0002 大阪府中央区大阪城一番1号  
TEL:06-6941-3044 FAX:06-6941-2197 URL: <http://www.osakacastle.net/>  
入館料 大人600円 中学生以下、大阪市在住の5歳以上の方は(要身分証明書)、障がい者手帳等ご持参の方は無料  
開館時間 9時〜17時 入館受付は16時30分まで(入館時間延長あり)※入館は閉館30分前まで  
交通機関 (1)近畿道 淀川線 大阪城公園駅 (2)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (3)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (4)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (5)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (6)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (7)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (8)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (9)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (10)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (11)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (12)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (13)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (14)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (15)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (16)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (17)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (18)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (19)近畿道 東山線 大阪城公園駅 (20)近畿道 東山線 大阪城公園駅

**知るほど!**  
**なるほど!**  
**大坂の陣!**

呼んでは、ならない名前「国家安康」  
現在、私たちは「氏」「姓」「苗字(みょうじ)」を同じものと考えていますが、江戸時代以前はまったくの別物でした。徳川家康の場合、「氏」は「源(みなもと)」、「姓」は「朝臣(あそん)」、「苗字」は「徳川」です。名前も「名乗り」と「諱(いみな)」の二種類がありました。豊臣秀吉は若い頃、木下藤吉郎秀吉を称しましたが、「藤吉郎」が「名乗り」で、「秀吉」が「諱」です。「諱」はすなわち「忌(い)み名(な)」で、口に出して呼んではならない名前でした。「諱」はその人の命、魂と考えられたのです。だからこそ、京都・大仏殿の鐘銘に「国家安康」と刻まれていたこと、家康は自分を切り刻み、呪うもの、とクレームを付けることができたのです。